

農村・農業の多面的機能としての健康資源と福祉力 ( 第 1 報 )  
- 韓国・慶尚北道の超高齢化社会対策における健康長寿村と地域開発を事例に -

李 應喆<sup>\*1</sup>・五十嵐 勉<sup>\*2</sup>・李 誠国<sup>\*3</sup>・金 建燁<sup>\*4</sup>・尹 喜貞<sup>\*5</sup>

地域資源学研究室<sup>\*1,2</sup>

慶北大学校医学専門大学院予防医学教室<sup>\*3,4,5</sup>

平成23年10月30日 受理

Health Resources and Welfare as the Multi-functions of Rural Area and Agriculture (1):  
An Example of Well-longevity Villages and Community Development  
Against the Super-Aging Society in Gyeongsangbuk-do, Korea

Eung-Cheol LEE<sup>\*1</sup>・Tsutomu IGRASHI<sup>\*2</sup>・Sung-Kook LEE<sup>\*3</sup>・Keon-Yeop KIM<sup>\*4</sup>・

Hee-Jung YOON<sup>\*5</sup>

Department of Resource Management and Social Sciences,

Faculty of Agriculture, Saga University, JAPAN<sup>\*1,2</sup>

Department of Preventive Medicine & Public Health

School of Medicine, Kyungpook National University, KOREA<sup>\*3,4,5</sup>

Accepted October 30, 2011

### Abstract

The purpose of this study is to select the well-longevity villages in Gyeongsangbuk-do and develop health resources for them as community development for the super-aging society. Jangsu-myeon in Yeongju-si, Homyeong-myeon in Yecheon-gun, Bukhu-myeon in Andong-si, and Murya-myeon in Bonghwa-gun were selected by combined selection criteria of longevity, life expectancy, health expectancy (DFLE: disability-free life expectancy), and the number of the aged, more than 100 per 100,000 persons.

The characteristic factors for these well-longevity villages in Gyeongsangbuk-do were clean water, fresh air from the forests, and the chemical-free natural vegetables. It is considered that a number of functions and health resources in rural areas have a significant effect on the life expectancy of the aged. An invigorating model for the well-longevity villages was developed to make full use of the characteristic health resources of each village, based on the above mentioned three factors for high life expectancy, as follows:

The model for Jangsu-myeon in Yeongju-si was named “healthy-blue zone with medicinal herbs along the field path” and the developmental programs are to build up the local senior-citizen center farm for herbs and special crop, to develop walking trails around Mt. Juma, to set up a farmhouse restaurant, and so on.

The model for Homyeong-myeon in Yecheon-gun was named “healthy-blue zone with the scent of the ancestors around the village”. The developmental programs are to set up an adult education center for experiencing *seodang* (village school) at Baeksong village, to develop of the path for looking around Seonmong platform, and so on.

The model for Bukhu-myeon in Andong-si was named “healthy-blue zone with oriental medicine of fun”. The developmental programs are to invigorate the herb medicine festival, to develop of walking trails around and up Mt. Hakga, and so on.

The model for Murya-myeon in Bonghwa-gun was named “healthy-blue zone with health promoting-food along the mountain trail”. Here, the developmental programs are to build up forest-healing centers along the Baekdudaegan, to develop and promote natural vegetables as food that increases life expectancy, to brand Korean traditional fermented soybean foods, and so on.

In addition to the selection and development of the well-longevity villages, systematic management is needed to maintain and promote the characteristics of the well-longevity villages in Gyeongsangbuk-do. Thus it will be a good idea to build up a support center for high life expectancy in the healthy-green zone. It is considered that the support center for well-longevity will be important in training of advanced health inhabitants to care for the aged, developing of health promotion educational programs for the aged, studying of the factors for the well-longevity, or and expending the community development of the well-longevity villages.

**Key words:** well-longevity, multi-functions of rural area, health resources, community development

## 1. はじめに

古くから人類の普遍的な願いは不老長寿であり、その願いのパロメーターが健康と言われている。人類が健康で豊かな生活をおくるために科学や経済などの発展にも持続的な努力を行って来た。

最近、健康づくりや健康維持に関する人々の関心と要求が増加しつつあり、多くの国で保健医療分野の政策と投資をも増やす傾向にある。また、経済成長と科学の発達で健康の目標が単純に生存期間の延長ではなく、生活の質（QOL:Quality of Life）を向上させようとする健康に広がっている。すなわち、寿命延長のための単純な治癒（cure）の機能の側面のみならず健康寿命を延長、維持させる管理（care）の役割などを含む医療システムに対する要求（needs）も一層高まっている<sup>1,2)</sup>。

韓国においても急速な高齢化に伴って高齢者の生きがいや健康増進、介護保険、地域の実情に相応した多様な保健福祉サービスの提供、高齢者の尊厳の確保などの新しい課題に対する対応が要求されるようになった。

韓国の高齢化と長寿地域は、大都市よりも農漁村地域で高い分布が見られる。それは農村・農業の多面的機能としての健康資源の豊かさと福祉力、および美しくて豊かな農村空間には都市と違うものが存在するからであると考えられる。農漁村地域には豊かな自然環境だけでなく、具体的に歴史、伝統文化、民俗芸能、祭り、伝説、神話、民謡、伝承技術、郷土料理、農漁村景観など人間の心の故郷にかかわる郷愁と安らぎを与える土着的な力がある<sup>3,4)</sup>。

それらは自然性、文化性、人間性など地域に固有なものである。また、忘れられて行く農漁村の人々の伝統的な生活方式、人情、親密性などは一方では煩わしいとはいえ、都市住民は農漁村で生まれ育った人々に対して郷愁を抱かせ、その景観と文化に対する憧憬を抱かせるものである<sup>5,6)</sup>。

しかし、韓国の農漁村地域は急変する国際情勢と国内の長期的な景気不況によって、地域産業の沈滞、農産物の輸入開放による競争力の低下、人口の自然減少と高齢化による地域活力の低下が深刻な問題に直面している。

近年、このような農漁村地域の総体的な困難な問題の対策と医療福祉向上のための代案の一

つとして、健康づくりのプロジェクトや健康長寿村の開発を通じた農漁村地域の活性化が推進されるようになった。健康長寿文化の先進国と言われるヨーロッパと日本などは健康プロジェクトを通じて地域活性の成果をあげている。もちろん、社会、文化、経済的背景などの条件は韓国との相違点が多いが、地域住民のQOLに対する高い関心などで今後の健康長寿村の開発要求は増加すると予想される<sup>7,8,9)</sup>。

したがって、超高齢化社会に備え、健康長寿村開発の究極的な目的は健康長寿文化と地域活性化の実践にあり、そのための人間の健康、生態環境の健康、地域社会の健康などと農業（農学）領域との関係、すなわち安全安心な食品、環境を保全する農業、癒しの農業など人類と生物や自然環境との共存をはかりながら、総合的なQOLの向上を通じて健康長寿文化を造成することが課題になる<sup>10,11,12)</sup>。

本稿では韓国・慶尚北道の健康長寿村の選定と地域開発のプロジェクトを通じて、健康長寿に選定された地域の地域的特性、文化的特性、環境地理的特性などの分析を踏まえ、慶尚北道の健康長寿文化と今後農村地域の活性化を考察する。

## 2. 韓国の人口現況

現在、韓国の人口は48,747千人（2009年）である。2050年には韓国の人口は約42,343千人と

表1 韓国の人口構造変化

単位：%

	2010年					2050年				
	例	0 - 14	15 - 64	65 +	80 +	例	0 - 14	15 - 64	65 +	80 +
<世界>	100.0	26.9	65.5	7.6	1.5	100.0	19.6	64.1	16.2	4.3
先進国	100.0	16.5	67.5	15.9	4.3	100.0	15.4	58.4	26.2	9.5
開発途上国	100.0	29.2	65.0	5.8	0.9	100.0	20.3	65.0	14.6	3.5
<b>韓国</b>	<b>100.0</b>	<b>16.2</b>	<b>72.9</b>	<b>11.0</b>	<b>1.9</b>	<b>100.0</b>	<b>8.9</b>	<b>53.0</b>	<b>38.2</b>	<b>14.5</b>

先進国：UNの人口統計作成際分類する先進国はヨーロッパ、北米、オーストラリア、ニュージーランド、日本などを含む。韓国：韓国統計庁、「将来人口推計結果」、2006より作成

表2 韓国の高齢化指数の変化推移

	2005年	2010年	2020年	2030年	2040年	2050年
<世界>	26	28	37	51	69	83
先進国	90	97	117	146	164	170
開発途上国	17	20	28	40	57	72
<b>韓国</b>	<b>47</b>	<b>68</b>	<b>126</b>	<b>214</b>	<b>315</b>	<b>429</b>

先進国：UNの人口統計作成際分類する先進国はヨーロッパ、北米、オーストラリア、ニュージーランド、日本などを含む。韓国：韓国統計庁、「将来人口推計結果」、2006より作成

表3 世界及び韓国の平均寿命

単位：歳

	1970～1975年( A )	2005～2010年( B )	差異( B - A )
<世界>	58.2	67.6	9.4
先進国	71.3	77.1	5.8
開発途上国	54.9	65.6	10.7
<b>韓国</b>	<b>62.7</b>	<b>79.1</b>	<b>16.4</b>

先進国：UNの人口統計作成際分類する先進国はヨーロッパ、北米、オーストラリア、ニュージーランド、日本などを含む。韓国：韓国統計庁、「将来人口推計結果」、2006より作成

推定され、13.1%も減少すると予測されている。

韓国の人口構成比は、65歳以上は2010年には11.0%であったものが、2050年には38.2%で3倍強を占めることになり、80歳以上の高齢者人口の割合は2010年に1.9%で先進国の4.3%より低いものの、2050年には14.5%と予測され、先進国の9.5%水準を上回る見通しになっている(表1)<sup>3)</sup>。

韓国の高齢化指数(2010年)は68で先進国の97より低いが、2020年には126で先進国の117より高くなるばかりか、2050年の高齢化指数も429で先進国平均の170より約2.5倍ほど高くなると予測される(表2)<sup>4)</sup>。また、韓国の平均寿命(2005~2010年)は79.1歳であったが、1970年から1975年までの62.7歳より16.4歳が増加している(表3)<sup>5)</sup>。

### 3. 研究の内容と方法

慶尚北道の長寿地域選定に関する調査は主に文献調査、統計庁と慶尚北道の人口資料を利用し、地域開発に関しては文献調査及び地域住民に対するアンケート調査を行った。そして長寿村発展にかかわる方策などについては地域住民への聞き取り調査などに基づいている。

研究調査期間は2009年8月から12月までに現地調査と専門家会議を併行した。

### 4. 慶尚北道の概要

慶尚北道(キョンサンブクト)<sup>\*1</sup>は新羅(シラギ)千年の仏教文化と神秘の伽椰(ガヤ)文化そしてソンビ<sup>\*2</sup>精神の儒教文化に満ち、民族文化の源と同時に韓国文化の顔であると言われている。また、セマウル運動<sup>\*3</sup>と自然保護運動など国民精神運動がおこった地でもある。

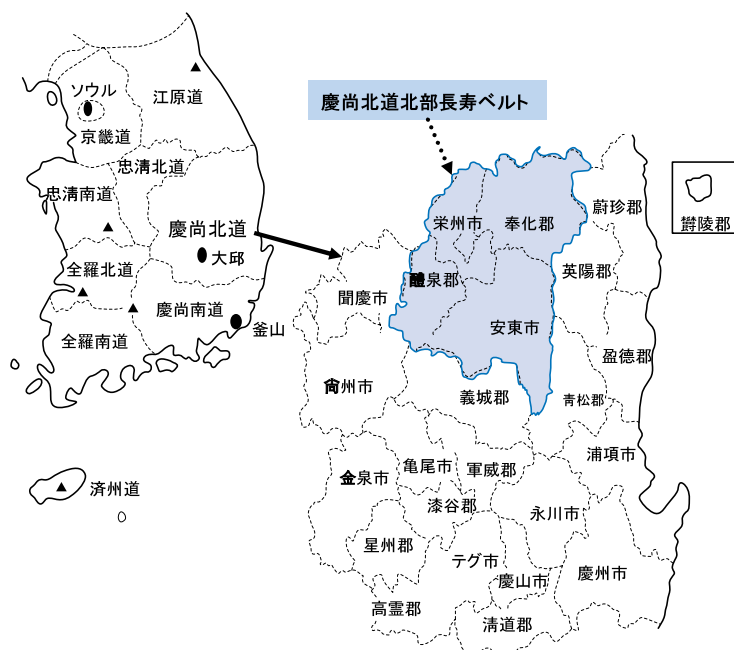


図1 慶尚北道24の健康長寿村選定地域

面積は19,028km<sup>2</sup>（全国土の19.1%）で韓国の最大都市ソウルの31倍に達して、行政区画は10市、13郡であり、総人口は2,669,876人（男性：1,340,977人、女性：1,328,899人）である<sup>16)</sup>。

地形としては竹嶺（ジユクリョン）、鳥嶺（ジョリョン）、秋風嶺（チュプンリョン）など大きな山嶺の以南に位置し、昔から嶺南（ヨンナム）と呼ばれてきた。東方では清浄東海岸、北方では江原（ガンウオン）と忠北（チュンブク）、西方では忠北（チュンブク）と全北（ジョンブク）、南方では慶南（キョンナム）と蔚山（ウルサン）が大邱（デグ）を囲んでいる。山地が多くて比較的高度が高く、北部と西部には高くて厳しい小白山脈が洛東江（ラクドンガン）流域の廣大な平野を屏風のように囲んでいるのが特徴的である。全体的に巨大な盆地の地形になっていて、韓国で一番面積が広い道になっている。

産業構造は、就業人口の基準で1次産業22.1%、2次産業17.9%、そして3次産業60.0%で構成されている（2010年）。農業が重要な産業のひとつであり、コメ、豆、ジャガイモ、大麦などが生産されている。大邱周辺で生産されるリンゴは特産物である。酪農業も営まれ、漁業もまた盛んで、エビ、カニなどの甲殻類、海藻やイカが漁獲される。

また、豊かな文化資源（全国文化財の20%）と天恵の観光資源、地域の高い文化的特徴を土台に伝統と現代が調和する世界的な文化・観光中心地になっている（図1）<sup>17),18)</sup>。

## 5. 健康長寿地域選定基準

### 1 段階

1) 長寿度は次の割合を組み合わせて適用：

65歳以上の高齢者人口に対する85歳以上の高齢者人口の割合（%）と65歳以上の高齢者人口に対する90歳以上の高齢者人口の割合（%）

2) 平均寿命と DFLE (disability-free life expectancy; 健康寿命) は健康長寿に関しては以下の要因を積極活用：

0歳の平均寿命（期待余命）、65歳の平均寿命（期待余命）、65歳以上の健康寿命（DFLE）

3) 65歳以上の高齢者人口に対する10万人あたり100歳以上の高齢者人口数：

長寿者の象徴的な対象になる100歳以上の高齢者人口数を健康長寿地域選定に適用。ただし、長寿村選定基準による合計点数が等しい場合、100歳以上の高齢者が多い地域が優先順位になる。

### 2 段階

1段階の選定基準に選定された邑と面単位の長寿地域に対して地域社会アンケート調査を実施して、農業の多面的機能としての健康資源や福祉力など地域活性化のための地域資源を把握し、村単位の健康長寿村を最終的に選定する。

## 6. 慶尚北道の健康長寿村選定プロジェクトの目的

第一に長寿村及び長寿者に対する概念の確立及び基礎調査を通して政策樹立基盤の基礎資料を提供する。

第二に、さまざまな人口統計資料及び指標を活用して慶尚北道の健康長寿地域を選定する。

第三に、慶尚北道の市郡別で長寿村を選定し、自立型長寿村の活性化モデルを開発する。

第四に、慶尚北道の長寿村活性化モデルが地域の長寿文化造成のための踏み台として長寿村

活性化の先進地域として定着を目指す<sup>19, 20)</sup>。

## 7. 結 果

### 1) 慶尚北道の高齢者人口の推移と100歳以上高齢者の現況

慶尚北道は、2007年65歳以上の高齢者人口の割合が14.6%で高齢社会に入った。市地域においては2008年12.9%で高齢化社会段階に止まっているが、徐々に増加する傾向を表している、遠くない未来に市地域も高齢社会の評価基準に入り、65歳人口の割合が14%を越すと予想される。郡地域は2004年に65歳以上の高齢者の人口割合が20.0%で超高齢化社会に入っていて、2008年には23.6%とふえた(図2<sup>1)</sup>)。全体的にすべての市地域では時間の経過につれて高齢者人口の割合が増加している。この中でも尚州市、聞慶市、永川市が高い水準を見せている。これに比べて浦項市、亀尾市、慶山市の高齢者人口の水準は低く、その変化は大きくない(表4)。郡地域も時間の経過とともに高齢者人口の割合が高くなる傾向が見られ、軍威郡と義城郡の高齢者人口の割合がもっとも高く、特に軍威郡の変化幅がもっとも大きい(表5)。

人間が100歳以上まで長生きすることは、人間の最高寿命に近接して暮すことを意味し、すべての人々が長寿の基準目標にしている。どの地域社会において100歳以上高齢者の存在は地域社会の健康長寿現象として受け入れられている。100歳以上高齢者は生まれつきの遺伝的傾向と食生活、楽天的性格、運動習慣などの生活習慣が最適に組み合った要因としてとらえられる。

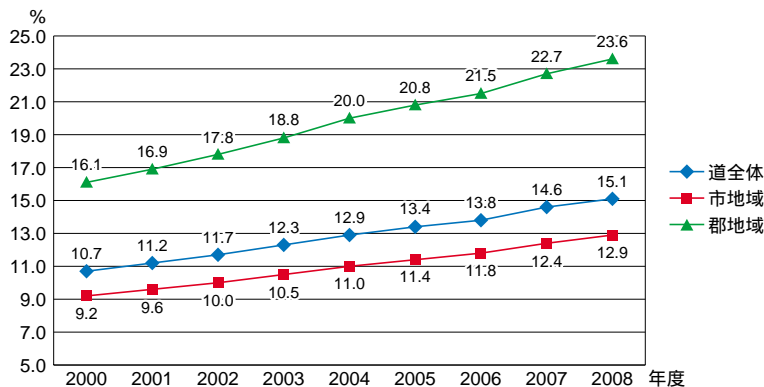


図2 慶尚北道の高齢者人口の推移 (慶尚北道住民登録人口統計 (2008年) より作成)

表4 慶尚北道の市地域における高齢者人口の推移

単位: %

	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
市地域	9.2	9.6	10.0	10.5	11.0	11.4	11.8	12.4	12.9
浦項市	6.2	6.5	6.8	7.2	7.6	8.0	8.4	8.9	9.3
慶州市	10.0	10.5	11.1	11.6	12.2	12.8	13.3	14.0	14.6
金泉市	12.1	12.7	13.4	13.7	14.7	15.3	15.9	16.6	17.2
安東市	12.2	12.7	13.2	13.9	14.6	15.2	16.0	17.0	17.5
亀尾市	4.8	4.9	5.1	5.2	5.4	5.4	5.5	5.8	6.0
栄州市	11.7	12.4	13.0	13.7	14.6	15.3	16.1	17.1	17.9
永川市	13.0	13.8	14.6	15.5	16.6	17.4	18.4	19.5	<b>20.2</b>
尚州市	16.0	16.8	17.7	18.7	19.8	20.6	21.5	22.7	<b>23.3</b>
聞慶市	13.9	14.6	15.9	17.0	18.1	19.0	19.9	21.2	21.7
慶山市	7.5	7.9	8.3	8.8	9.2	9.5	9.9	10.4	10.9

(慶尚北道住民登録人口統計 (2008年) より作成)

表5 慶尚北道の郡地域における高齢者人口の推移

単位：%

	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
郡地域	16.1	16.9	17.8	18.8	20.0	20.8	21.5	22.7	23.6
軍威郡	19.3	19.6	21.5	23.5	25.0	26.5	27.7	29.6	<b>30.6</b>
義城郡	19.7	20.9	22.3	23.6	25.2	26.4	27.5	29.3	<b>30.6</b>
青松郡	16.8	17.9	19.1	20.1	21.8	23.2	24.5	26.1	27.2
英陽郡	18.1	19.5	20.9	22.3	24.0	24.9	26.3	28.2	<b>29.1</b>
盈徳郡	17.4	18.6	18.4	20.8	22.2	23.4	23.6	26.1	27.4
清道郡	18.9	20.0	20.9	21.8	23.4	24.4	25.3	26.7	27.6
高霊郡	15.7	16.6	17.5	18.5	19.6	20.3	20.7	21.4	22.0
星州郡	16.6	17.3	17.6	18.9	19.8	20.8	21.5	22.5	23.3
漆谷郡	8.7	8.9	9.2	9.6	10.0	10.2	10.3	10.7	10.9
醴泉郡	18.8	20.0	21.3	22.6	24.1	25.2	26.2	27.9	28.9
奉化郡	17.6	18.8	20.2	21.2	22.9	24.0	25.4	26.7	27.6
蔚珍郡	14.6	15.3	16.2	17.3	18.6	19.6	20.5	21.5	22.4
鬱陵郡	13.2	14.1	14.7	15.9	16.7	16.9	16.6	17.4	17.4

(慶尚北道住民登録人口統計(2008年)より作成)

慶尚北道の実際年齢が100歳以上の高齢者は2009年10月現在、153人で、男性は24人(15.7%)、女性は129人(84.3%)である。65歳以上の高齢者人口10万人あたりで、100歳以上の高齢者人口数は慶尚北道の市郡全体で醴泉郡が86.5人でもっとも多い。

市地域では聞慶市が85.6人で一番多かったが、栄州市83.4人、安東市61.4人の順になっている。郡地域では醴泉郡が86.5人でもっとも多く、その次は高霊郡で39.2人、英陽郡は36.6人であった<sup>22,23)</sup>。

## 2) 慶尚北道の市と郡別の健康長寿地域

健康長寿村の選定基準によって選定された地域を見ると、市地域では栄州市が最適の長寿地域に選定された。栄州市は65歳以上の高齢者人口の割合で4位であったが、65歳以上の高齢者人口に対する85歳以上の高齢者人口の割合と65歳以上の高齢者人口に対する90歳以上の高齢者人口の割合、65歳の期待余命、65歳健康寿命がもっとも高く、1位に選定された。安東市と尚州市は同じく2位に選定されたが、65歳以上の高齢者人口に対する10万人あたり100歳以上の高齢者人口数で、安東市が尚州市より高く、安東市が優先順位で上位に選定された。

郡地域では醴泉郡が最適の長寿地域に選定されたのは、醴泉郡は65歳の期待余命は2位、65歳の健康余命は2位、65歳以上の高齢者人口割合は4位であるものの、65歳以上の高齢者人口に対する85歳以上の高齢者人口の割合と65歳以上の高齢者人口に対する90歳以上の高齢者人口の割合、65歳以上の高齢者人口に対する10万人あたり100歳以上の高齢者人口数で1位であった。2位の奉化郡は65歳以上の高齢者人口に対する85歳以上の高齢者人口の割合と65歳以上の高齢者人口に対する90歳以上の高齢者人口の割合はそれぞれ3位と5位で、65歳の期待余命と65歳健康余命がそれぞれ1位、健康的な側面では奉化郡が醴泉郡より少し優位な傾向を示した。しかし総合的な評価では醴泉郡が最適の長寿地域に選定された(表6)<sup>22)</sup>。

## 3) 慶尚北道の邑面地域別選定された健康長寿地域

慶尚北道内長寿村は総2段階にわたった選定基準によって選定した。これら地域はWHOの超高齢社会(super-aged society)の基準である全体人口の中で65歳以上の高齢者人口が占める割合が20.0%をより上回る地域で65歳以上人口の中で85歳以上の高齢者人口割合と90歳以上の

表6 慶尚北道の市/郡別の健康長寿地域

行政 区域	全体 人口	A		B		C		D		E		F		G		各項目別 順位合計	
	計	計	順位	計	順位	計	順位	計	順位	計	順位	計	順位	計	順位	計	順位
慶尚北道	2,673,931	15.1		6.8		1.9		79.0		18.9		17.2		38.0			
市部																	
浦項市	508,119	9.3	9	6.5	8	1.7	8	78.8	6	18.4	8	16.6	8	38.0	5	52	9
慶州市	269,343	14.6	7	7.2	6	2.0	4	79.0	5	18.6	7	17.0	7	45.8	4	40	6
金泉市	138,056	17.2	6	7.3	5	1.9	7	79.2	3	19.4	2	17.5	3	33.6	6	32	4
安東市	167,300	17.5	5	7.4	3	2.2	3	78.7	7	18.8	5	17.2	4	61.4	3	30	2
亀尾市	393,959	6.0	10	6.9	7	1.9	6	79.6	1	18.7	6	17.2	4	29.7	8	42	7
栄州市	113,930	17.9	4	7.7	1	2.4	1	79.2	2	19.8	1	18.1	1	83.4	2	12	1
永川市	104,022	20.2	3	5.1	10	1.3	10	77.6	10	18.1	10	16.6	9	14.3	10	62	10
尚州市	105,381	23.3	1	7.4	4	2.0	5	78.4	8	19.2	3	18.1	2	32.6	7	30	2
聞慶市	75,486	21.7	2	7.5	2	2.3	2	77.8	9	18.2	9	16.5	10	85.6	1	35	5
慶山市	237,423	10.9	8	5.5	9	1.4	9	79.1	4	18.9	4	17.1	6	27.0	9	49	8
郡部																	
軍威郡	25,309	30.6	2	6.4	11	1.4	13	78.2	8	18.8	8	17.3	5	12.9	9	56	9
義城郡	60,033	30.6	1	6.8	6	1.7	9	77.3	12	18.8	9	17.3	6	10.9	10	53	7
青松郡	27,289	27.2	8	6.1	13	1.6	11	76.6	13	18.8	6	17.0	7	0.0	11	69	12
英陽郡	18,766	29.1	3	6.3	12	1.9	4	78.9	3	18.6	11	16.3	13	36.6	3	49	5
盈徳郡	42,707	27.4	7	6.6	7	1.8	7	77.4	11	19.1	3	17.7	4	34.1	4	43	4
清道郡	44,711	27.6	6	6.6	9	1.6	10	78.0	10	18.3	13	16.5	12	0.0	11	71	13
高霊郡	34,770	22.0	11	6.5	10	1.5	12	78.8	4	18.8	7	16.7	10	39.2	2	56	9
星州郡	45,024	23.3	9	6.9	4	1.7	8	78.2	7	18.6	12	16.8	9	19.1	7	56	9
漆谷郡	116,472	10.9	13	6.6	8	1.8	6	79.4	1	18.9	5	16.6	11	15.8	8	52	6
醴泉郡	47,993	28.9	4	7.8	1	2.5	1	78.1	9	19.3	2	17.8	2	86.5	1	20	1
奉化郡	34,628	27.6	5	6.9	3	1.9	5	79.1	2	19.4	1	17.8	1	31.4	6	23	2
蔚珍郡	53,042	22.4	10	7.4	2	2.2	2	78.6	6	19.0	4	17.7	3	33.7	5	32	3
鬱陵郡	10,168	17.4	12	6.9	5	1.9	3	78.6	5	18.7	10	16.9	8	0.00	11	54	8

A) 全体人口の中で65歳以上の老人人口の比率(%), B) 65歳以上の老人人口の中で85歳以上の比率(%). C) 65歳以上の老人人口の中で90歳以上の比率(%), D) 2008年度の0歳の期待余命 E) 2008年度の65歳の期待余命, F) 2008年度の65歳の健康余命 (DFLE), G) 65歳以上の老人人口の中で100歳以上の人口 (10万名当り)

高齢者人口割合がそれぞれ最低5.0%と2.0%以上の地域だった。一般的に義城郡を除くすべての地域で女性の高齢者割合が男性の高齢者の割合より高かった。

先に、1段階では長寿村を邑と面単位で選定したが、市地域の浦項市南区、浦項市北区、慶州市、金泉市、安東市、亀尾市、栄州市、永川市、尚州市、聞慶市、慶山市の各一つ面で総計11の面を選定し、郡地域である軍威郡、義城郡、青松郡、英陽郡、盈徳郡、清道郡、高霊郡、星州郡、漆谷郡、醴泉郡、奉化郡、蔚珍郡、鬱陵郡のそれぞれ一つの面で総計13の面が選定された。

このように選定された地域は、市地域が浦項市南区の長岐面、浦項市北区の松羅面、慶州市の陽北面、金泉市の南面、安東市の北後面、亀尾市の舞乙面、栄州市長寿面、永川市の大昌面、尚州市の化東面、聞慶市の永順面、慶山市の南山面であり、郡地域では軍威郡の召保面、義城郡の春山面、青松郡の安德面、英陽郡の青杞面、盈徳郡の南亭面、清道郡の角南面、高霊郡の



表7 慶尚北道の地域別の健康長寿村（邑面段位）

行政区域	選定 地域	全体人口の中で 65歳以上の 老人人口の比率(%)			65歳以上の 老人人口の中で 85歳以上の 老人人口の比率(%)			65歳以上の 老人人口の中で 90歳以上の 老人人口の比率(%)			
		計	男	女	計	男	女	計	男	女	
		市部									
浦項市	南区	長髻面	33.3	25.3	40.9	8.2	6.2	9.3	2.2	1.1	2.9
浦項市	北区	松羅面	28.9	21.7	35.4	9.0	6.2	10.5	2.5	2.1	2.7
慶州市		陽北面	28.6	20.3	37.3	8.1	5.2	9.8	2.6	1.9	2.9
金泉市		南面	28.5	20.5	36.6	11.7	7.3	14.2	3.2	2.7	3.6
安東市		北後面	34.1	27.2	41.4	11.0	6.1	14.4	4.0	2.1	5.4
亀尾市		舞乙面	30.8	22.9	38.7	7.9	4.8	9.8	2.3	2.2	2.4
栄州市		長寿面	31.8	26.4	37.4	10.5	7.8	12.6	3.3	2.0	4.3
永川市		大昌面	29.4	22.2	36.9	6.4	5.0	7.2	2.1	0.8	2.9
尚州市		化東面	30.5	26.0	34.9	9.7	8.5	10.5	2.7	2.1	3.1
聞慶市		永順面	34.6	27.9	41.1	10.6	6.4	13.3	3.5	0.8	5.2
慶山市		南山面	26.1	19.2	34.0	6.8	5.9	7.5	2.2	1.4	2.7
郡部											
軍威郡		召保面	38.8	32.6	45.1	8.1	6.6	9.2	1.9	1.1	2.5
義城郡		春山面	32.0	26.4	37.6	8.6	8.2	8.8	2.5	3.5	1.8
青松郡		安德面	33.8	28.5	38.9	7.2	4.8	8.9	1.9	1.0	2.5
英陽郡		青杞面	39.4	34.2	44.6	7.6	5.8	9.1	2.9	2.4	3.3
盈徳郡		南亭面	34.0	26.0	41.0	8.8	6.6	10.0	2.6	1.4	3.2
清道郡		角南面	35.8	28.8	42.0	7.9	5.9	9.1	2.0	0.9	2.7
高霊郡		雙林面	29.8	22.2	37.2	8.4	6.7	9.4	2.0	1.3	2.5
星州郡		船南面	21.6	16.5	27.3	8.2	5.6	9.9	2.5	1.9	2.9
漆谷郡		岐山面	27.1	21.7	33.2	7.5	4.4	9.8	2.6	1.0	3.7
醴泉郡		虎鳴面	36.4	30.6	41.9	9.3	5.8	11.8	3.2	0.7	5.0
奉化郡		物野面	33.2	28.6	37.8	7.3	5.4	8.7	2.4	2.1	2.6
蔚珍郡		遠南面	41.4	30.3	51.4	9.7	5.3	12.1	2.4	0.5	3.4
鬱陵郡		北面	25.8	20.3	31.9	6.5	4.8	7.7	2.6	2.1	2.9

双林面，星州郡の船南面，漆谷郡の岐山面，醴泉郡の虎鳴面，奉化郡の物野面，蔚珍郡の遠南面，鬱陵郡の北面であった（表7）。

#### 4) 健康長寿村に選定された村の地域特性及び地域資源

##### 事例(1) . 浦項市南区：長髻面 金烏里（チャンキミョン クムオリ）

###### ア) 長髻面の地域特性

長髻面は全体人口が5,699人であり，65歳以上人口割合が33.3%である．美しい海岸景観と慶州（キョンジュ）市と境界地点で浦項（ポハン）市の最南端に位置し，長さ14.5kmもの海岸線沿いに漁村12の村と農漁村21の村をかかえ，漁村ではマボヤとワカメを豊かに産し，海風が吹きあう陸地には有名なヤマイチゴ（トックリイチゴとも呼ばれる）の産地である．文化財である長髻邑城は韓国唯一の城門が3つあり，邑城として国家史蹟第386号に指定されているば

かりか、郷校（ヒャンギョ）<sup>\*4</sup>、書院（ソウォン）<sup>\*5</sup>、斥和碑（チョクファビ）<sup>\*6</sup>など文化遺跡が多く散在している。

イ)「長髻面金烏里」が長寿村に選定されたアンケート調査の内容と結果

A. 金烏里が長寿村だと思ふ理由は何ですか？

村の49世帯の人口100人の中、49人が高齢者であり、最高齢者は106歳のHお婆さんが居住していることに加え、交通が不便な奥地村であるが、空気が清浄地域である。

B. 村人は特にどんな食べ物が好きで、具体的にどんな種類の地域伝統食べ物（あるいは食品）が長生きするのに影響を及ぼしていると思いますか？

野菜類、豆類（みそ）をたくさん取って、直接栽培した野菜、果物、無公害米を食べている。塩辛類もよく食べているし、キムチは主にイワシエキスを利用して作り、またヤマイチゴも多く食べています。

C. 村の気候、土壌、そして環境はどうですか？

山で取り囲まれた四季が明らかな農漁村であり、中性土壌に農作物と植物がよく育ちます。高齢者同士に互いに生活しあいし、協力し合って、家族が食べられるくらいの耕作をし、周辺に山が多くて、空気が清くて環境に優しい農産物を栽培して摂取しています。

D. 村人は高齢者とどんな紐帯関係を持っていますか？

毎年、村の大同会を2回ずつ開催して、高齢者の方々をもてなす敬老孝親思想がまだある。絆帯関係（人間関係）が特別であり、浦項市最高齢者のHお婆さん（106歳）が居住することに自負心を持っていて、しばしば訪問しています。

E. 村の長寿者が長生きする特別な秘訣は何だと思ひますか？

村人は都心と離れた地域で居住しているし、自分が栽培した親環境農産物を食べて、きれいな環境の中で近所とは深い人情を交わしながら生きて行くのが長寿の秘訣であると考えられます。また肯定的で、楽天的で、余裕のある考え方、文明的なことはあまり気にしないことです。

## 事例(2) . 栄州市：長寿面 星谷里（チャンスミョン ソンコクリ）

ア) 長寿面の地域特性

長寿面は全体人口2,572人の中65歳以上の高齢者人口が817人の31.8%である。約400年前に全州李氏たちが定着して花岐2里（ハギ2リ）区域に氏族村をつくった後、長生きする高齢者が多かったので長寿院と呼ばれるようになったが、1914年行政区域改編の時に好文面と豆田面が合併して長寿面になった。

長寿面は小白山（ソベクサン）支脈で花崗岩が豊かに埋蔵された走馬山（ジュマサン）が西部に位置しているし、玉溪川とウゴック川を中心に左右に氏族村と肥えた農耕地が形成されている美しい村である。中央高速道で栄州ICは面役場が隣接しているばかりか、現在国道28号線4車線拡張事業が進行していて栄州市入り口として今後、開発潜在力が豊かな地域である。

米穀に依存した主な所得源が畜産業と葉草及び特用作物栽培に転換されて農家の所得が向上している。そして長寿農工団地にはパネル生産の産業のほかに16種25もの企業が、活発な生産及び販売活動をしている。また、慶北北部地域で唯一、立派な子供遊び施設を擁する長寿観光農園のジョイワールドが長寿面にある。特に、長寿面には国の宝物5点、有形文化財1点と民俗資料館1ヶ所がある。

イ)「長寿面星谷里」が長寿村に選定されたアンケート調査の内容と結果

A. 星谷里が長寿村に選定された理由は何だと思ひます？

長寿面星谷里の65歳以上の高齢者人口の割合は57.1%で、長寿面でもっとも高い。

B. 村人は特にどんな食べ物が好きで、具体的にどんな種類の地域伝統食（あるいは食品）が長生きするのに影響を及ぼしていると思いますか？

大体に雑穀及び伝統的な醤油類（みそ、コチュジャンなど）種類のおかずと季節ごとに生産される新鮮な野菜と肉類が好きです。

C. 村の気候、土壌、そして環境はどうですか？

花崗岩で有名な村の星谷里には花崗岩の採石場が散在している。走馬山の前には盆地型村で日差しが多くて太陽光発電所があるほどで日照量が豊富であるばかりか土壌が良くて稲作、雑穀類及びタマネギを栽培する畑作が多いところだ。

D. 村の人々は高齢者とどんな紐帯関係を持っていますか？

村の住民たち大部分が氏族及び親戚で住民相互間の紐帯関係（人間関係）が良い方です。

E. 村の長寿者が長生きする特別な秘訣は何だと思えますか？

まず典型的な田舎であり、里山の走馬山の空気が良くて、主に稲作及び畑作を行い、大部分の村人は農業に携わっている。農村人口がますます減っている状況で雑穀及びタマネギの畑作耕作で高齢者にとって労働力が切実に必要と感じている。高齢者はいつも忙しく農業を直接耕作及び手伝ってくれるなど大体によく働きます。

### 5) 長寿村選定と開発に関する地域住民の Needs

各地域別で長寿村選定と開発に関する地域住民の Needs に対するアンケート調査を実施した。

その結果は次の通りである。地域の長寿村開発のための最優先の条件では自然環境保存とこたえた回答者が73.9%でもっとも多く、次に食べ物に回答した者が65.2%、遊びのプログラムと伝統的な生活方式がそれぞれ60.9%を示した。見どころと社会福祉プログラム提供もそれぞれ34.8%、買物が30.4%、交通施設26.1%、研究及び学術、長寿文化振興と運営主体の専門性がそれぞれ17.4%、広報とその他がそれぞれを4.3%を示した（表8）。

地域の長寿イメージブランド開発におけるもっとも適した分野について聞いたところ、地域の長寿イメージブランド開発におけるもっとも適した分野では食品関連分野に回答した方が39.1%でもっとも多かった。次いで住居関連分野、医療関連分野、余暇関連分野はそれぞれ17.4%であった（表9）。

### 6) 慶尚北道の健康長寿村選定プロジェクトの意義

(1) 急速な高齢化社会（Aging Society）と望ましい老年

韓国は20世紀の後半40年の間には生活の水準の向上、医療の技術の発展、衛生条件の改善が

表8 地域の長寿村開発に備えるべき諸要因

条件 <sup>1)</sup>	百分率
観る	34.8
遊ぶ	60.9
食べる	65.2
買物	30.4
自然環境保存	73.9
伝統的な生活方式	60.9
研究及び学術	17.4
交通施設	26.1
宿泊及び便宜施設	17.4
長寿文化振興	21.7
運営の専門性	21.7
社会福祉プログラム提供	34.8
社会福祉施設	17.4
広報	4.3
その他	4.3

注：1) 重複回答

表9 地域の長寿イメージブランド開発におけるもっとも適した分野

条件	百分率
住宅関連分野	17.4
医療関連分野	17.4
余暇関連分野	17.4
食品関連分野	39.1
기타	8.7

進み、急速な人口の高齢化の現象が現れた。21世紀の前半20～30年の間には高齢化の現象がもっとも目立って、世界に類例がないほどの早い進行が予想されている。

しかし、OECDの2009年の健康白書によると、2007年のOECDの会員国の平均期待寿命が79.1歳であり、韓国は79.4歳でルクセンブルクと一緒に20位を分かち合っていた。つまり、韓国は高齢化の速度に比べて平均期待寿命がOECD加盟国の中で順位が低く現われたことになる。

#### (2) 高齢社会から元気な長寿社会への認識の転換

平均寿命は以前と比べると著しく増加して高齢者は死について、比較的に自由にとらえられるようになって今はみんな無病長寿を願うようになった。また高齢社会に対する認識の転換のために元気な長寿社会という新しい概念が確立される必要があり、元気な長寿社会という概念は高齢社会という概念と次のような側面に対比される概念でとらえていい。

まず、構成員たちが年齢によって階層化されている社会ではなくて、老若男女と一緒に地域社会に積極的に参加して調和している社会である。

第二に高齢者たちが他人に依存的に暮して行かなければならない社会ではなくて、自らが主導的・独立的に暮して行ける社会である。

第三に高齢者たちを客体化して社会的システムに主導的な参加を制限して受動的な保護対象として認知するのではなくて、老人たちが自ら仕事を見付けて社会の建設と保全に先立つような全体性で認知される社会にならなければならない<sup>23, 24)</sup>。

#### (3) 元気な長寿文化の構築

今まで高齢層は高齢者に指称される受動的で、消極的で、非生産的で、非効率な少数集団で認識されている状況にあった。そして急激に増加された高齢層の人口は個人だけでなく社会的にも文化的に衝撃になっている。

したがって長寿という言葉は、高齢者という概念を簡単に年齢的・時間的な概念の結果としてではなく、より社会的な側面で能動的な生活を営むことができる階層という概念で捉え直す意義がある。

元気な長寿の文化では、簡単に寿命の延長という側面での努力だけではなく、死に至るまでの人生を効率的に享有することができる社会的システムを確立して個人の身体的・精神的な能力を発揮することができる生活パターンの確立がなによりも要求される。

#### (4) 健康長寿村の開発及び地域活性化

元気な長寿文化は総体的な生活の質の向上を通じて達成することができるし、元気な長寿文化を実践することに際して健康長寿村の造成が不可欠になってくる。

したがって、この研究は急速な高齢化の現象に直面している慶尚北道で健康長寿の地域を選定して市郡別で健康長寿村と指定して、老人たちを中心に地域社会の特徴を十分に考慮した長寿村の開発事業の方案や政策を提示して、高齢化による高齢者問題の解決のための基礎資料を提示する<sup>25, 26, 27, 28)</sup>。

## 8. 結び：韓国の長寿現状

20世紀の終わりにすべての人々が長生きするという目標は達成できなかったが、それでも人類はその目標に今までになく近づくことができたようになった。1800年には10億弱の人類が存在し、平均寿命は30歳に達していなかったが、2000年には60億強の人類が存在し、平均寿命は67歳に達した。

特に、韓国社会は現在世界で類例がないほど早い速度で高齢化に直面している。全体人口で占める割合が7%の高齢化社会から14%を越える高齢社会に突入する時間は、先進国で日本が24年、最も長いフランスは115年もかかったが、韓国は現在のような推移で進めば、たった18年しかかからないと予想されている。すなわち、2000年に7.3%だった高齢者の人口割合が2018年には14.3%になると予想されている（統計庁，2006年）<sup>29,30</sup>。

また、高齢社会で高齢者人口が20%に占める超高齢社会に切り替わるのはフランスが41年、アメリカは15年、日本は12年に予想されているが、韓国の場合、たったの7年で到達すると予想されている。そして人口の高齢化をもっと加速化させる要因である出産率が急激に低くなったことも考慮しなくてはならない。女性1人が平均出産した子供の数が1971年3.4名だったのが爾来30年間急速に低下して2002年には1.2名になり、世界的にもっとも出産率が低い国になってしまった。

これは21世紀、韓国社会に人的資源の減少という深刻な問題に直面するという懸念が高いのも現実である。したがって高齢者たちの生産的な活動に参加することができるシステムの構築が重要な国家的課題として浮上した。問題は高齢者人口が20%を越した超高齢化地域が相当な地域に分布しているので、高齢化に備えた生産体系の構築も国家発展を左右するうえで重要な課題になっている。

また、このような急速な高齢化が国土全域に均等に進行されるのではなく地域によって差が見られ、85歳以上の人口数に対する65歳以上の人口数の割合で現わす長寿度が地域によって大きな差を見せている。このことから、長寿者が住んでいる長寿地域に対する地域的、文化的、社会経済的やその特性等を明らかにすることは緊急かつ重要な課題として、将来の高齢化に備えた地域社会の発展方向を提示することも不可避な課程である。

#### 1) 韓国の100歳以上の高齢者分布

韓国の全国16の広域市と道の中で100歳の高齢者の人口比率がもっとも高い地域は全羅南道の6.4%で、もっとも低い地域は蔚山広域市で0.6%であった。また85歳以上超高齢者の人口比率がもっとも高い地域は済州道の8.0%で、もっとも低い地域は釜山広域市で4.2%、大邱広域市で4.4%であった。

韓国の100歳高齢者の社会的特徴としては性別では男性と女性との比率は日本の場合、男性が17%、女性は83%で、その比が1:5なのに対して、韓国は男性が8.5%、女性は91.5%でその比は1:11で、女性が多かった。

また、現在の住居地について見ると、100歳以上の約30%が施設や病院で生活している。日

表10 韓国の高齢者人口の変化

人口/年代		1966	1970	1975	1980	1985	1990	1995	2000
総人口	人口数	29,158,880	31,434,611	35,386,237	38,203,285	41,285,339	43,868,037	45,084,643	46,570,911
	5年間増加率		7.8	12.6	8.0	8.1	6.3	2.8	3.3
65歳以上	人口数	958,966	1,039,378	1,226,525	1,467,484	1,777,147	2,180,803	2,663,309	3,401,930
	人口比	3.3	3.3	3.5	3.8	4.3	5.0	5.9	7.3
	5年間増加率		8.4	18.0	19.6	21.1	22.7	22.1	27.7
85歳以上	人口数	24,899	29,967	43,962	53,879	76,665	95,047	133,017	174,939
	人口比	0.09	0.10	0.12	0.14	0.19	0.22	0.30	0.38
	5年間増加率		20.4	46.7	22.6	42.3	24.0	39.9	31.5

（統計庁（2006年），人口変化表より作成）

表11 韓国の100歳以上高齢者分布 (地域別、単位:人)

	2005年		2000年	
	100歳以上人口の割合(%)	10万人当たり人口	100歳以上人口の割合(%)	10万人当たり人口
計	961 (100.0)	2.03	934 (100.0)	2.02
男性	104 (10.8)	0.44	82 (8.8)	0.35
女性	857 (89.2)	3.62	852 (91.2)	3.71
<地域別>				
ソウル	141	1.4	131	1.3
釜山	31	0.9	47	1.3
大邱	34	1.4	23	0.9
仁川	35	1.4	34	1.4
光州	29	2.1	31	2.3
大田	20	1.4	41	3.0
蔚山	6	0.6	5	0.5
京畿	152	1.5	130	1.4
江源	34	2.3	45	3.0
忠北	23	1.6	38	2.6
忠南	107	5.7	47	2.5
全北	61	3.4	61	3.2
全南	116	6.4	137	6.9
慶北	84	3.2	74	2.7
慶南	56	1.8	53	1.8
済州	32	6.0	37	7.2

(統計庁(2005年)人口住宅総調査,100歳以上高齢者調査より作成)

本の場合、過去に比べて100歳以上の高齢者が施設に入所する傾向が徐々に増加しているのが現われているし、100歳以上が多い沖縄の場合、1997年には施設入所者が在宅高齢者より多くなったと云われている。

これに対して韓国の場合、2008年に高齢者長期療養保険(介護保険)が始まり、施設入所が徐々に増える傾向にある。現在高齢者の住居形態は一人暮らしが12%、息子夫婦と同居が67.5%、高齢者夫婦が6.1%である(表11)。

## 2) 韓国の長寿地域の環境的特性

### (1) 韓国の長寿の環境的要因

一般的に人口10万人あたり百歳の人が21人以上は長寿地域を指す。

韓国の長寿地域は海拔300~400mの嶺南(ヨンナム)と湖南(ホナム)丘陵地域に集中した長寿ベルトが形成されているのが特徴である。全北長寿地域は淳昌で人口10万人当たり100歳の人が29名で1位、全南長寿地域は全南宝城と慶北禮泉で人口10万人当たり100歳の人が28名で共同2位、その他の長寿地域は慶南の居昌、山清、全南の靈光、谷城、咸平、潭陽、求禮、診島慶北の尚州、忠南の青陽順であった。

### (2) 韓国の長寿地域の変化

特に、済州島と南海岸に集中していた長寿地域が小白山脈周辺まで広がって都市部ではソウル江南区と瑞草区が新しい長寿地域で浮び上がった。

そして長寿地域の環境要因としては降水量と平均標高が長寿度と関連があることが示唆された。長寿地域は降水量が多くて水が豊かで標高が適当に高い(海拔300~400m)中山間地域に

多く分布していることが明らかになった<sup>31, 32, 33, 34, 35</sup>。

1970年代は全南の島嶼と南海岸を中心に形成された長寿地域は1980年を基点に内陸地方に拡張し始めて2000年には小白山脈地域まで至った。過去に長寿度がもっとも低かった江原道は急激に長寿度が高くなって最下位圏を脱出した。

また、ソウルの江南（カンナム）区と瑞草（ソチョ）区が長寿地域で浮び上がったことも注目される。瑞草区は1995年に長寿の順位が24位に上がった後、2000年には9位に上がり、江南区は2000年には5位に飛躍している。この二つの瑞草区と江南区が長寿地域で浮び上がった背景には大型医療施設が多くあることと住民の所得水準が高いことに相関関係があると推定される。

1970年代以後、全国の長寿度が持続的に増加する傾向にあるにもかかわらず、既存長寿地域の長寿度が1990年代から減少の傾向に変わった背景には、開発など自然環境の変化等の環境的な要因が長寿に大きく影響していると考えられる（図3）<sup>36, 37, 38</sup>。

### 9. 摘 要

本稿は超高齢社会に備えて韓国・慶尚北道の地域に健康長寿村を選定することと、選定された村に農村・農業の多面的機能としての健康資源と福祉力、そして地域資源を利用した地域開発の模索・提示することである。栄州市長寿面、醴泉郡虎鳴面、安東市北後面、そして奉化郡物野面が長寿度、期待余命、健康寿命（DFLE）、そして10万人あたり100歳以上の高齢者数と

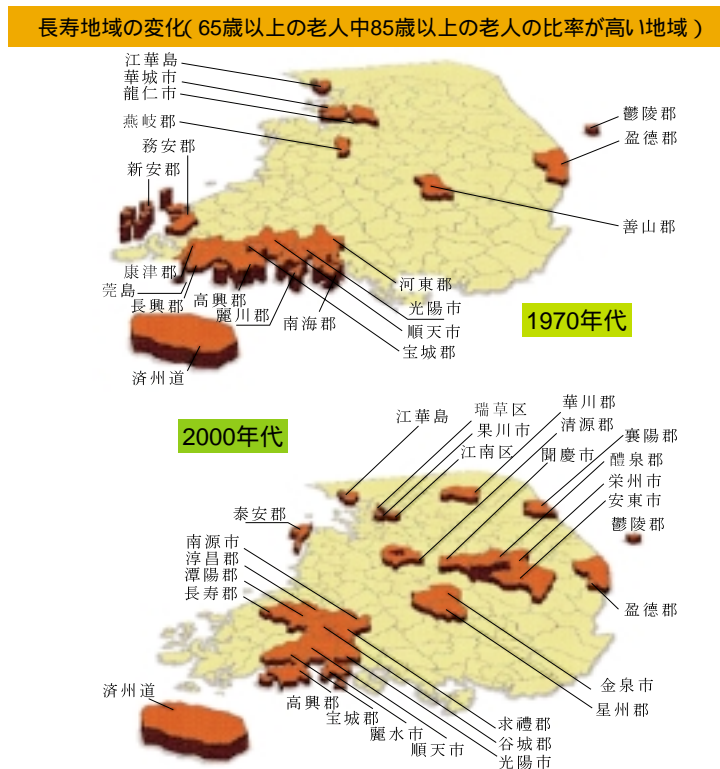


図3 韓国の長寿地域の環境的特性

（朴相哲（2002年）韓国の百歳人より作成）

いう総合的な選定基準によって選定された。

慶尚北道における長寿地域の特徴的な長寿要因は第一に清い水，二番目に森林から出る清い空気，三番目が無公害自然食品と山菜などの食べ物であると考えられる。そして農村の多面的機能と健康資源の豊かさが長寿に大きな影響を及ぼしていることも考慮に入れる必要がある。このような三つの長寿要因を根拠にして各地域の特性を最大限に活用して健康長寿村の活性化モデルの開発を試みた。

栄州市長寿面の健康長寿村の活性化モデルを“野道の薬草健康ブルーゾーン”と名付けてみた。詳細な事業として1) 地域の高齢者が中心になって薬草及び特用作物のための共同作業場の造成，2) 村に接した走馬山(ジユマサン)探訪路の開発，そして3) 農家レストランの造成などがあげられる。

醴泉郡虎鳴面の健康長寿村の活性化モデルの場合を“先祖の香りと健康ブルーゾーン”で名付けてみた。そのための事業として，白松村の寺小屋体験(烏川書堂)と仙夢臺(ソンモンデ)の周辺に探訪路の開発があげられる。

安東市北後面の健康長寿村の活性化モデルの場合は“興味と漢方健康ブルーゾーン”と名付けて，そのための事業として，1) 山野草の漢方祭りの活性化と2) 鶴駕山ウオーキングコース及び登山路の開発などがあげられる。

奉化郡物野面の健康長寿村の活性化モデルとしては，“山道と健康ブルーゾーン”で名付けてみた，そのためには1) 白頭大幹森林セラピーセンターの造成，2) 健康長寿食品として山野草の開発と広報，3) 醤油類のブランド化などがある。

また，慶尚北道健康長寿地域の長寿特性を維持して発展させるためには地域に対する総体的で体系的な管理が必要である。そのために健康ブルーゾーン地域に健康長寿支援センターをつくることを提案したい。健康長寿支援センターは長寿者に対する高齢者の保健医療関連専門の人材育成や高齢者の健康増進のための教育プログラム開発，さらには長寿要因の研究及び長寿村の地域活性化を推進することも重要だと考えられる。

キーワード：健康長寿，農村の多面的機能，健康資源，地域開発

## 謝 辞

本稿は，著者が佐賀大学に赴任する直前から共同研究員として参加した2009年慶尚北道の受託研究「超高齢化社会の備えにおける長寿村選定と地域開発に関する研究」(研究代表者：李誠国)の慶北大学医学専門大学院予防医学教室の研究プロジェクト報告書を基にして加筆・訂正したものである。

また，本稿の作成に際して，生涯の指導教官でいらっしゃる武田淳先生に添削とご指導をいただきました。心から感謝します。そしてソウル長神大学時代の教え子で現在韓国自然治癒教育協会理事として活躍する鄭淳允先生にも手を煩わした。



## 注

- \* 1. 韓国の行政区画は、以下のような階層構造をとっている。
- 一特別市・6広域市・8道・一特別自治道、つまり（特別市（都）・広域市（府と政令市）・道（県）・特別自治道（道））の16が第1行政区画，市・郡・区・邑（オブ）・面（ミョン）・洞（ドン）・里（リ）が第2行政区画に区分できる。
- 特別市・広域市の下には区と郡が，道の下には市と郡が置かれている。基本的にはこれらが韓国の基礎自治体になる。市と郡は公選の首長（市長・郡守）と議会（市議会・郡議会）を持つ。また，基本的に市と区の下には洞が，郡の下には邑と面がある。
- 都市部に置かれた洞は日本の市町村内の町や大字に相当する。支所・出張所と公民館の機能を併せ持った「洞事務所」が置かれている。郡部に置かれた邑と面は，それぞれ日本の町あるいは村に相当するが，自治権は持たない。邑と面の場合もそれぞれ，「洞事務所」と同様の機能を持つ「邑事務所」あるいは「面事務所」がある。
- なお，1995年以後に市と郡が合併してできた市，人口規模の大きな郡を丸ごと昇格させた市を「都農複合形態市」と呼び，同じ市の中でも都市的な地域には洞が，農漁村部には邑・面が置かれている。邑と面の下には里があり，これは日本の大字に相当する。
- \* 2. ソンビ（韓国語 선비）とは，学識が優れて行動と礼節が塗って義理と原則を守って権力と富裕栄華を貪らない高潔な人柄を持った人に対する呼称。特に高麗，朝鮮時代の社会に儒教的理念を具現しようとした階層を示す。ソンビは熱心に勉強して官僚になることができる身分として士農工商で第一身分である士民にあたる。
- \* 3. セマウル運動は韓国独自の地域開発運動である。セマウルとは「新しい村」という意味で，1970年4月22日当時朴正熙大統領が全国地方長官会議で提唱したのが始まりである。
- セマウル運動の目標としては
1. 全ての住民を自発的にこの運動に参加させ，いわゆる精神革命を起こす。
  2. 社会開発を通じて住民がより暮らしやすい村で，福祉生活を楽しむ。
  3. 経済開発を通じて村の労働生産性を向上させ，個人所得を高める。
- 「勤勉」・「自助」・「協同」を基本精神とした。1971年から全国規模に拡大したこの運動は，農民の生活の革新，環境の改善，所得の増大を通じ，それまで経済開発から取り残されていた農村の近代化を，主として政府主導で実現した。
- この運動にちなみ，朴大統領自身が「セマウル運動歌」を作詞・作曲したのに続き，快活な「セマウル歌謡」が次々と作られ，放送や拡声器を通じて終日流布された。また列車の名前が「セマウル号」と命名されたほか，日本の信用組合に相当する金融機関は「セマウル金庫」（새마을금고，セマウルクムゴ）と改組・改名された。
- なお，この運動の発祥地は慶尚北道の清道郡とされており「セマウル運動発祥の地・清道」というキャッチフレーズとセマウルのイメージが入ったマークを特許庁に商標登録したと発表した。
- \* 4. 高麗時代と朝鮮時代に地方に置かれた儒教学校のことを意味する。
- \* 5. 朝鮮時代の書院は，儒学の振興に業績があった先賢を祭祀して，儒教的素養を備えた人材養成のための教育を担当するという点では成均館や郷校と同じであった。しかし，王から賜額を受けて書籍や農地を国家から支援をうける準公立書院を除き，書院の特徴は郷村の士林の公論あるいは子孫たちによって設立された私学であるという点にある。
- \* 6. 1871年（高宗8）興宣（ホンソン）大院君が鎖国攘夷政策（鎖国攘夷政策）を内外に誇示するために全国の主要都市に建てた碑石である。
- 斥和碑には“侵犯する西洋蛮夷に対抗して争わなければ和親することであり，和親を主張することは国を売ることだ”（洋夷侵犯 非戦則和 主和売国）という文が刻まれている。

## 引用文献

1. 李誠国, 金建燁, 李應喆, 尹喜貞 (2010), 慶尚北道の超高齢社会の備えにおける長寿村選定及び開発の研究報告書, 慶北大学.
2. 李應喆 (2008), 健康文化と保健医療の新しいパラダイム - 自然治癒を中心に -, ソウル長神大学論壇, 351-382.
3. Dan Buettner (2009), The Blue Zone (世界長寿村ブルーゾーン), 暮し Life.
4. 慶北バイオ産業研究院 (2009), 第2回慶北食品博覧会開催記念フォーラム - 慶北食品産業の世界化及びマーケティング活性化方案.
5. 李應喆 (2003), 地域資源を活用した地域活性化 (研究代表: 曹緑煥, 地域活性化のための緑色観光 Green Tourism) 発展戦略樹立及び体験プログラム開発) 報告書, 農村振興庁農村資源開発研究所, 水原市・京畿道, pp.1-30.
6. 曹緑煥他 (2003), 農村伝統テーマ村の緑観光資源利用研, 農村生活研究所.
7. 安玉善他 (2007), 農村口伝知識資源の調査と活用, 農村資源開発研究所.
8. 済州島・済州発展研究院 (2006), 済州長寿村及び長寿者の生活風俗度調査.
9. 済州島・済州発展研究院 (2006), 済州長寿村選定及び長寿イメージ向上のための商品開発基礎調査.
10. 李應喆 (2004), 農村健康長寿村の意味と方向 - 日本の事例を中心に -, 農村健康長寿村の指導者ワークショップ, 農林水産食品部農村振興庁, 水原市, 京畿道, pp.17-29.
11. 李應喆, 張碩宗, 高銀愛 (2006), 京畿道廣州市桑林里の農村健康長寿村の発展計画用役報告書, ソウル長神大学校, 廣州市, 京畿道.
12. 李應喆, 姜景河 (2006): 暮らしの良い地域づくりモデルの有形化及び公募方案樹立研究, 健康型基本モデル報告書, 韓国行政自治部, ソウル.
13. 韓国統計庁 (2006), 100歳以上高年者調査結果.
14. 韓国統計庁 (2008), 死亡者統計.
15. 韓国統計庁 (2008), 全国住民登録人口統計.
16. 韓国統計庁 (2009), 2008年生命表 (全国及び試みの方) 作成結果.
17. 大邱慶北研究院 (2008), 慶北北部新発展地域発展方向.
18. 大邱慶北研究院 (2008), 慶北北部圏の落後実態と広域的発展方案研究.
19. 大邱慶北研究院 (2008), 白頭大幹生態ベルト構築 - 環境とビジネスの調和 - .
20. 大邱慶北研究院 (2009), 慶尚北道スローフードバレー造成方案.
21. 慶尚北道 (2008), 住民登録人口統計.
22. 慶尚北道 (2009), 100歳以上市郡別高齢者人口現況.
23. 済州発展研究院長寿文化研究センター (2004), 長寿イメージブランド研究開発.
24. 済州発展研究院 (2008), 済州長寿者の社会的扶養体系と福祉対策方案.
25. 農村振興庁農村生活研究所 (2003), 農漁村伝統テーマ村の緑観光資源利用研究.
26. 農村振興庁農村資源開発研究所 (2007). 農漁村口伝知識資源の調査と活用.
27. 金ウギョム (2003), 長寿の秘訣, ソウル大学出版部.
28. 鄭南秀他 (2003), 高齢化社会に備えた農漁地域長寿度の定義及び長寿地域基準に関する研究, 農漁村計画 9(3), ; 35-39.
29. 韓国統計庁 (2006), 100歳以上高年者調査結果.
30. 国民健康保険公団 (2008).
31. 朴相哲 (2007), 韓国の長寿人と長寿地域, ソウル大学出版部.
32. 朴相哲 (2002), 韓国の百歳人, ソウル大学出版部.
33. 朴相哲 (2005), 韓国長寿人の個体的特性と社会環境的要因. ソウル大学出版部.
34. 韓国保健福祉家族部 (2008), 高齢親とモデル地域活性化のための都農・世代間交流プログラム開発.
35. 李誠国 (2007), 慶尚北道長寿者の栄養及び食生活実態調査.
36. イ オンジョン (2009), 100歳健康偶然ではない, 中央ブックス.
37. 森本兼曩, 宮崎良文, 平野秀樹 (2009), 「森林治癒」(編) ジョンナムスプ (韓国).

38. 李應喆, 裴勝根, 催明喜, 李恩慶, 黃寅燮, 吳蘭淑 (2009), 韓国の長寿現状と長寿地域の環境的特性の考察, 日本 - 韓国 - ハワイ国際フォーラム, JAPAN - KOREA - HAWAII JOINT FORUM, New Centenarian Studies: Towards Active Aging, 山口県立大学, 山口県.